

製品名: IgM 鎖 C ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab12449**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	50kDa

抗原情報

遺伝子名	IGHM
別名	Ig mu chain C region
遺伝子 ID	
SwissProt ID	P01871
免疫原	IgM 鎖 C から得られた合成ペプチド（アミノ酸範囲: 391-440）

背景

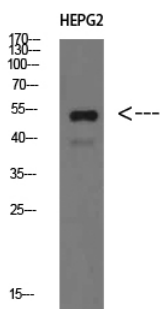
免疫グロブリン (Ig) は、B 細胞の抗原認識分子です。Ig 分子は、2つの同一の重鎖と2つの同一の軽鎖 (MIM 147200 を参照) で構成され、これらの重鎖はジスルフィド結合で結合しており、各重鎖は軽鎖と結合し、2つの重鎖は互いに結合しています。各 Ig 重鎖

には、抗原結合部位を含む N 末端可変 (V) 領域と、抗体のアイソタイプを決定し、エフェクター機能またはシグナル伝達機能を提供する個別の C 領域遺伝子によってコードされる C 末端定常 (C) 領域があります。重鎖 V 領域は、V 遺伝子 (MIM 147070 を参照)、結合 (J) 遺伝子 (MIM 147010 を参照)、および多様性 (D) 遺伝子 (MIM 146910 を参照) の 3 種類の遺伝子がそれぞれ 1 つずつコードされています。C 領域遺伝子は、14 番染色体上の重鎖遺伝子座において、V 領域遺伝子の下流に密集している。IGHM 遺伝子は、 μ 重鎖の C 領域をコードしており、これは疾患: IGHG1 遺伝子に関連する染色体異常が多発性骨髄腫の原因となる可能性がある [MIM:254500]。CCND1 との転座 t(11;14)(q13;q32)、FGFR3 との転座 t(4;14)(p16.3;q32.3)。IRF4 との転座 t(6;14)(p25;q32)。,その他:疾患タンパク質 OMM は、対立遺伝子型または別のガンマ鎖サブクラスを表す可能性があります。、その他:疾患タンパク質 WIS は、V 領域の大部分と CH1 領域のすべてを欠いています。、その他:疾患タンパク質 ZUC は、正常なガンマ 3 重鎖と比較して、V 領域の大部分、CH1 領域のすべて、およびヒンジの一部を欠いています。、その他:EU は、残基 155、166、177、195、198、269、および 272 のアミド化状態と、残基 268-272 の順序も異なります。、その他:KOL は、残基 198、267、および 272 のアミド化状態も異なります。、その他:Nie も異なります 35、116、198、269、272 のアミド化状態において、Nie は G1M(17)アロタイプマーカー 97-K と G1M(1)マーカー 239-D および 241-L を有する。KOL および EU 配列には、G1M(3)マーカーと G1M(非 1)マーカーがあります。、その他:ガンマ 3 鎖のヒンジ領域は他のガンマ鎖の約 4 倍の長さで、15 残基の同一セグメントが 3 つ含まれ、その前に同様の 17 残基セグメント(12-28)が続きます。、オンライン情報:IGHM 変異データベース,多型:ヒト μ 鎖では、位置 191 および 216 における S/G および V/G 多型の 4 通りの組み合わせすべてが観察されています。、細胞内局在:分化の過程で、B リンパ球は膜結合型 IgM の発現から IgM の分泌へと切り替わります。、サブユニット:12 のジスルフィド結合で結合した二量体。ヒンジ領域に通常存在する 11 のジスルフィド結合に加えて、位置 7 に余分な鎖間ジスルフィド結合があります。、

研究分野

免疫学

画像データ



HEPG2 細胞の IgM Chain C ポリクローナル抗体 (1:500 希釈) を用いたウェスタンブロット解析。二次抗体は 1:20000 に希釈した。